


AIも使った お手軽な議事録ソリューション

サイボウズ株式会社



簡単かつセキュアに、 どこからでもつながり、 どこでも情報活用！

どこにいても、誰とでもリアルタイムのコミュニケーションがとれ、チームワークを円滑にする。
これが、Cisco Webex Teams の大きな特徴の一つです。

忙しい現代社会、さらに少子高齢化社会をむかえ、場所やデバイスを選ばず、チームメンバーとつながることができるツールは、ますます重要になります。

私たちサイボウズは、Cisco Webex Teams および Cisco Webex Board をさらに活用する連携ソリューションを提案いたします。



後から見返す情報はストックデータに!

会議のまとめを投稿するだけで議事録が完成

たとえば訪問先での打合せの議事、いつ書いていますか?

自社に戻ってからだったり、まとめて残業で書いていたりませんか?



Cisco Webex Teams を使うと、**スマホで移動中の電車の中から**でも議事をパッと**共有**することができます。ただし後日、Cisco Webex Teams の投稿履歴から議事を探すとなるとちょっと大変です。

そんな時に**bot**を使って、手軽さをそのままに、議事録管理アプリに議事録を登録しましょう。

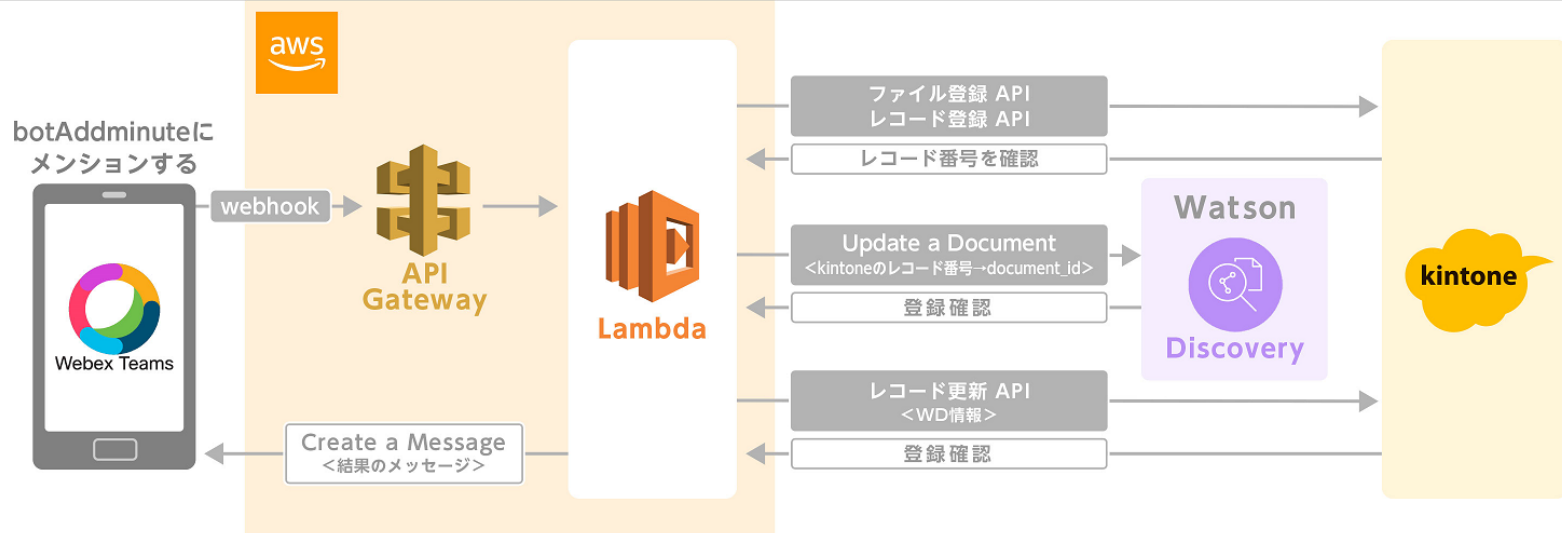
チームメンバーへ、**スピーディに情報を共有**しつつ、そのまま**データベースに議事録を作成**できる**一石二鳥の仕組み**です。

Cisco Webex Teams では概要レベルで共有し、その内容をベースに後から議事録管理アプリにて、詳細を追記することも可能です。

ファイルも議事録管理アプリに登録できるので、Cisco Webex Boardのデータやディスカッションに使った資料も一緒に管理できます。

構成図/概要

Add Minute



■ Cisco Webex Teamsの会議スペースから、議事録を作成

- 議事録をスペースからbotを使って、議事録管理アプリ(kintone)に登録
- 添付ファイルの登録も可
- kintoneアプリに登録/更新されたテキストデータは、同時にWatson Discoveryに登録
- kintoneの議事録管理アプリを直接更新した場合も、Watson Discoveryを更新

※ Watson Discovery への登録/更新/削除をkintoneアプリから実施可能



時期や細かい話題を忘れていても大丈夫！ 口語で議事録検索

「えーっと、あの時議事録に残したはずだけど、その議事録どれだっけ？」というようなとき、キーワードをいろいろ試しながら議事録を検索したり、議事録ファイルを次々に開いて確認していませんか？

Cisco Webex Teams のbotに調べたいことを**話しかける**だけで、見返したい議事録を探し出すことができるようになります。

AIを活用して、正確なキーワードを思い出せなくても、過去の議事録を**簡単に検索**することができる仕組みです。



構成図/概要

Search Minutes



■ Cisco Webex Teamsのスペースから、過去の議事録を検索

- スペースからbotを使って、キーワード(話し言葉でOK)を投稿すると、関連議事録を議事録管理アプリ(kintone)からリストアップ
- リストに含まれる議事録レコードのリンクから確認したい議事を参照も可
 ※リンクからの議事録参照は、Cisco Webex Teamsの基本機能につき、構成図には含まれていません。

使用した製品およびサービス

■ Cisco Webex Teams

■ kintone

- ノーコーディングでアプリケーションを作ることができるサービス
- 今回は議事録を登録するアプリケーションとして使用
- <https://kintone.cybozu.co.jp/jp/>

■ Watson Discovery

- コグニティブサービスのプラットフォーム
- 大量データの検索、データからのパターンの読み取りなど
- 今回は議事録を自然言語で検索する部分に使用
- <https://www.ibm.com/watson/jp-ja/developercloud/discovery.html>

使用した製品およびサービス

■ Amazon API Gateway

- APIの作成、配布、保守、監視、保護を行うサービス
- 今回、Webex Teams のWebhook を受けてLambda関数を呼び出すAPIを作成
- https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/apigateway/latest/developerguide/welcome.html

■ AWS Lambda

- サーバーの用意/管理をせずに処理を実行できる環境
- 今回使用している箇所
 - Cisco Webex Teamsに投稿された議事録や添付ファイルを、kintoneアプリと Watson Discoveryに登録する処理及び、その結果Webex Teamsへ投稿する処理
 - Watson Discovery にへの検索指示および、結果をCisco Webex Teamsへ投稿する処理
- https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/lambda/latest/dg/welcome.html

実行環境に準備について

■ 詳細な設定は、プログラムファイル一式に含むReadmeファイルをご確認ください

■ kintone

- 30日間無料お試し環境：<https://kintone.cybozu.co.jp/jp/trial/>

■ Watson Discovery

- IBM Cloudライト・アカウント：<https://www.ibm.com/watson/jp-ja/developercloud/discovery.html>

■ AWS

- トライアル環境：

https://aws.amazon.com/jp/s/dm/landing-page/start-your-free-trial/?sc_channel=PS&sc_campaign=acquisition_JP&sc_publisher=google&sc_medium=cloud_computing_b&sc_content=aws_trial_e&sc_detail=aws%20%E3%81%8A%E8%A9%A6%E3%81%97&sc_category=cloud_computing&segment=208324298105&sc_matchtype=e&sc_country=JP&sc_brand=brand&ef_id=WlbjTgAAADs7LyOR:20180820125939:s

■ Cisco Webex Teams から kintone へのAWSを使ったデータ登録の方法として以下のサイトもご参照ください

<https://developer.cybozu.io/hc/ja/articles/115003093763>

ソリューションのポイント

- フローデータ(Cisco Webex Teams)とストックデータ(kintone)の良いところ
- データの探しやすさを向上(Watson Discovery)
- 議事録データを直接Watson Discoveryに登録せず、kintoneアプリに登録することで、閲覧、登録、更新、削除の操作性を向上

+αのメリット

- Cisco Webex BoardのデータもCisco Webex Teamsを介して簡単にkintoneに登録
 - Cisco Webex Boardのデータに、後日続きを書き足すような場合、1回ごとの履歴をkintoneに保存することができ、前回の状態を確認することができる
- kintoneの機能を活用し、運用をサポート
 - Cisco Webex Teamsからは、簡単な議事録だけを登録し、kintoneアプリで詳細を追記することができる
 - 議事録管理アプリに承認フローを付けることができる
 - 別途タスク管理アプリを作り、タスクの管理アプリと連携することができる